

ITと住宅の共同研究 スマホアプリを紹介

【荒尾】

同社と大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門

荒尾市 学校の共同研究「IT住宅プロジェクト」で、原万田のアーバン開発したタブレット端末、スマートフォン用のアプリケーションも来場者に紹介された。六、二十七日の両日、同市東屋形でモデルハウスの完成見学会を開催。

学校の共同研究「IT住宅プロジェクト」で、原万田のアーバン開発したタブレット端末、スマートフォン用のアプリケーションも来場者に紹介された。

製作されたのは「同社の情報発信」「子どもの見守り」の二種のもの。近距離無線通信技術の国際規格、NFCを用い、シールに埋め込んだICチップの電波を受信すると起動する仕組み。シール

「見守り」アプリは住宅購入者が主に子育て世代であることに着目して開発された。キーホルダーを家に置いて端末にかざすと、「ただいま」などのメッセージを指定しておいた複数のアドレスへ送信することができる。

はキーホルダーなどに貼り付けて使う。「情報発信」アプリは手軽に同社の情報にアクセスでき、電子メールを介したコミュニケーション、電子カタログや動画の配信なども可能だという。

来場者からは「これほしい」「あると便利、安心」と好評だったという。同社ではモニターを募って、その声を聞きながらアプリを改善し、完成後はタブレット端末を住宅購入者へプレゼントする予定だ。



川添さん、国崎さん（左から）の説明を受ける来場者